

勾当台公園再整備基本構想

令和 4 年 6 月
仙 台 市



目次

1. 再整備基本構想と関連施策との位置づけ	1
① 目的	
② 勾当台公園の概要	
③ 基本構想策定に向けたフロー	
④ 関連施策との位置づけ	
⑤ 関連事業・計画とのスケジュール	
⑥ 関連事業・計画等	
2. 勾当台公園の現況	3
① 歴史	
② 用途地域・交通等	
③ 公園・緑地・街路樹	
④ 自然環境	
⑤ 景観	
⑥ 公園施設・空間特性	
⑦ 公園利用	
⑧ 公園内の動線とアクセス手段	
⑨ 防災	
3. 再整備の方針	16
① 再整備に向けた視点と配慮すべき事項	
② 利用者像と利用シーン	
③ 勾当台公園再整備に向けた基本理念(コンセプト)と基本的な方向性	
④ 再整備の方向性	
⑤ 再整備のイメージ	
⑥ 基本計画策定に向けて	

1. 再整備基本構想と関連施策との位置づけ

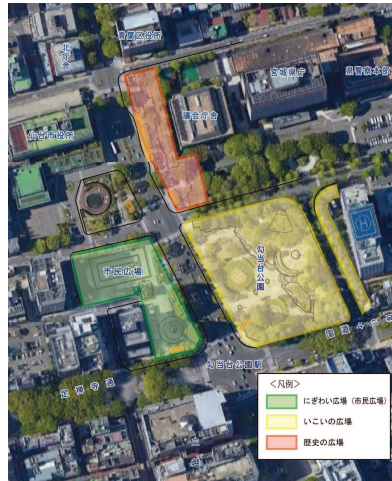
① 目的

勾当台公園は、多種多様なイベントが数多く開催され、年間270日程度も使用されている市民広場、保存樹林であるヒマラヤシダーに囲まれた勾当台東側のいこいの広場等、賑わいや憩いの場として多くの市民に親しまれている。

当該公園の整備後30年以上が経過し、施設に老朽化が見られる他、市役所本庁舎の建て替えに伴う新本庁舎低層部・敷地内広場及び勾当台公園市民広場の一体的活用に向けた連携等を背景とし、本市中心部の更なる賑わいづくりや公園の価値向上等を目的に、勾当台公園全体の再整備基本構想を検討するものである。

② 勾当台公園の概要

勾当台公園の概要を以下に示す。

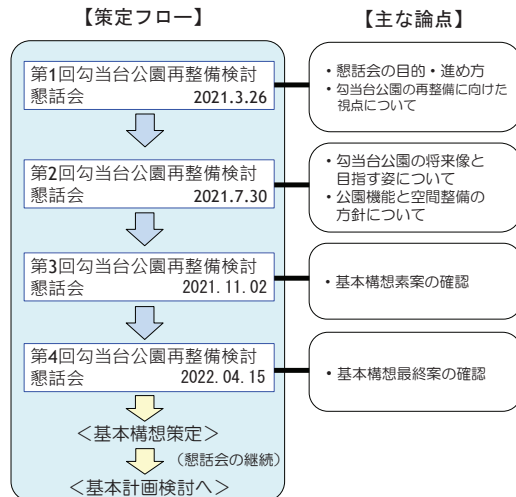


名称	勾当台公園
所在地	仙台市青葉区本町三丁目9-2外
公園種別	近隣公園
規模	26,887㎡
設置	昭和31年度
改修	平成元年度

■エリア別面積
 【にぎわい広場(市民広場)】
 約8,000㎡
 【いこいの広場】
 約15,000㎡
 【歴史の広場】
 約4,500㎡

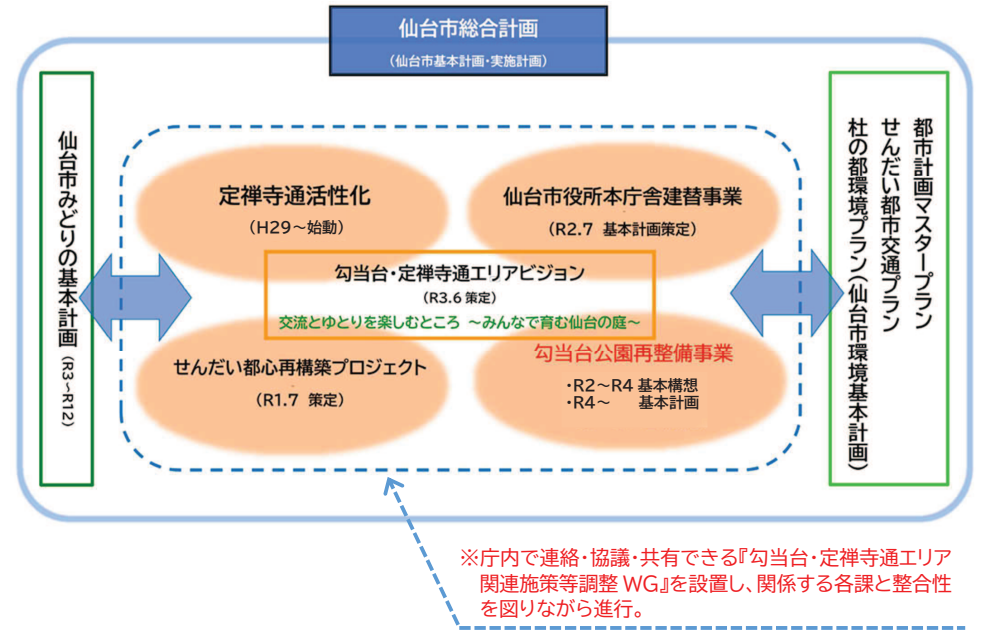
③ 基本構想策定に向けたフロー

本基本構想は以下のフローにより検討する。



④ 関連施策との位置づけ

勾当台公園再整備に関連する施策が、下記のとおり進行している。



⑤ 関連事業・計画とのスケジュール

	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 (2026)	R9 (2027)	R10 (2028)	R11 (2029)	R12 (2030)	
勾当台公園再整備		基本構想	基本計画	設計					いこいの広場 市民広場 歴史の広場	再整備		
		勾当台公園再整備検討懇話会								市民広場 供用開始		
本庁舎建替												
設計	計画	設計										
工事				改修工事	先行解体	一期工事	外構			旧庁舎 解体	二期工事	外構
低層部												

⑥ 関連事業・計画等

勾当台公園を取り巻く関連事業・計画等を整理すると以下のとおりである。

勾当台公園に関する事項

<p>仙台市基本計画（令和3年3月策定）</p> <p>【理念】挑戦を続ける、新たな杜の都へ～“The Greenest City” SENDAI</p> <p>【目指す都市の姿】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●杜の恵みとともに暮らすまちへ ●多様性が社会を動かす共生のまちへ ●学びと実践の機会があふれるまちへ ●創造性と可能性が開くまちへ 	<ul style="list-style-type: none"> > 杜の都を象徴する景観と文化交流・市民活動の場 > 市役所本庁舎や定禅寺通などの豊かな公共空間と市民等の多様な主体が展開する多彩な活動が日常的な賑わいと交流を生み出す場 > 多くの人が集う、魅力ある都市空間の形成
<p>仙台しみどりの基本計画（令和3年6月策定）</p> <p>【基本理念】百年の杜づくりで実現する新たな杜の都</p> <p style="text-align: center;">みどりをはぐくむひと、みどりが育むまち</p> <p>【基本方針】みどりで選ばれるまち（活力・経済など）</p> <p style="text-align: center;">みんながみどりを享受できるまちをつくる</p>	<ul style="list-style-type: none"> > 都心部の活力・にぎわいの創出する場 <ul style="list-style-type: none"> ●街路樹のある公共空間の活用によりにぎわいを創出 ●公園を活用したエリアマネジメントの推進 > グリーンインフラの推進（みどりの計画的配置、雨水の浸透貯留機能の向上等）
<p>勾当台・定禅寺通エリアビジョン（令和3年5月策定）</p> <p>【まちづくりの理念】“交流”と“ゆとり”を楽しむところ</p> <ul style="list-style-type: none"> ●まちづくりに寄与する公共施設・公共空間をつくる ●公・民の空間をつなぎ、人や活動をつなぐ ●多くの人々や民間投資を呼び込む 	<ul style="list-style-type: none"> > エリアのほぼ中央に位置し、市民の広場等が重点ゾーンとしての位置づけ > 定禅寺通の東西端に位置する錦町公園と西公園の中間地点に位置する“みどり”の核 > 定禅寺通×一番町四丁目商店街の2軸の交差、市役所新本庁舎と連続したシームレスな利活用空間 > 公・民の協働による多彩な活動の場、まちづくりに取り組む様子を発信する場
<p>仙台市役所本庁舎建替基本計画（令和2年7月策定）</p> <p>【新本庁舎の目指す方向性】市民とともに、まちとともに新たな時代に向けてチャレンジする</p> <p>【基本整備方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●行政庁舎として持続性と柔軟性を備え、協創・共創の場 ●市民が集う多彩な協働の杜をつくる ●杜の都、防災環境都市を発信 	<ul style="list-style-type: none"> > 市民の広場と新本庁舎低層部、定禅寺通等との空間的な一体性の確保、一体的な利活用空間の形成 > 市民広場とともに市民活動の活性化を目指し、情報発信機能の強化 > 市民広場との連続性の向上により災害対応機能の強化 > 東一番町通沿いの植栽による緑の回廊の連続性
<p>定禅寺通活性化（平成29年度から始動）</p> <p>定禅寺通エリアが持つポテンシャルを活かし、訪れ、滞在したくなる環境づくりを進め、都心全体の回遊性の向上・活性化を図る</p>	<ul style="list-style-type: none"> > 定禅寺通緑地を結ぶオープンスペースとして、一体的な取り組みの場
<p>せんだい都心再構築プロジェクト（令和元年7月策定）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●イノベーションが生まれる都心 ●交流拠点となる新たな賑わいを創り出す都心 ●杜の都の個性が活きる都心 	<ul style="list-style-type: none"> > 文化交流・市民活動の場として、市民広場等の日常的な賑わいと交流を創出する > 緑と交流・賑わい軸（回遊軸）とアーケード（商業・賑わい軸）が交差する場

※その他関連計画

仙台市都市計画マスタープラン、せんだい都市交通プラン、杜の都環境プラン（仙台市環境基本計画）

2. 勾当台公園の現況

① 歴史

- 勾当台公園は昭和 31 年開園後、地下鉄南北線の開業等を契機に公園リニューアルを行っている。リニューアルに伴い、東二番丁通と勾当台通の直線化（クランク解消）工事、保存樹林であるヒマラヤシーダーの移植を実施している。
- 歴史的には、園内に仙台藩の藩校「養賢堂」の遺構や「四ツ谷用水」がかつて存在していたなど、歴史的な要素を有している。

<本公園の沿革>

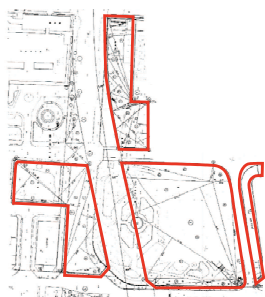
1604 年、伊達政宗公は広瀬川西岸の青葉山の要害に千代城（千代はやがて仙台と改名）の建城を開始した。政宗公は開城にあたり、城の北東は鬼門であるとして祈願寺・定禅寺を建立、花村勾当（座頭）を住まわせた（「勾当台」の地名はこれに由来と言われる）。仙台城から広瀬川を渡り、現在の西公園から定禅寺に通じる参道が定禅寺通りとなった。のちに定禅寺は荒廃し、藩校「養賢堂」となり、戦前は第三陸軍病院、宮城県商工振興奨励館、宮黒地方事務所などが置かれたが、戦災によりすべて焼失した。戦後は戦災復興土地整理事業が実施され、勾当台公園として都市計画決定、昭和 31 年 4 月 1 日に開園した。

<再整備の概要>

公園の開園後、地下鉄南北線の開業等を契機に、勾当台地区を都市圏の一層の発展が予想される拠点地区として公園のリニューアル工事を行った。リニューアルに伴い、東二番丁通と勾当台通の直線化（クランク解消）が実施された。



東二番丁通と勾当台通との直線化（クランク解消）工事
（昭和 60 年頃）



勾当台公園のリニューアル（平成元年度）

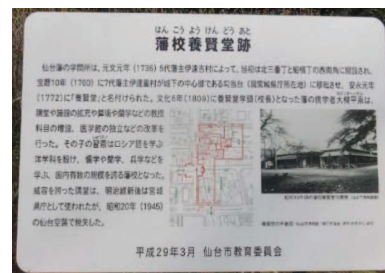
<勾当台公園の歴史的要素>

●養賢堂

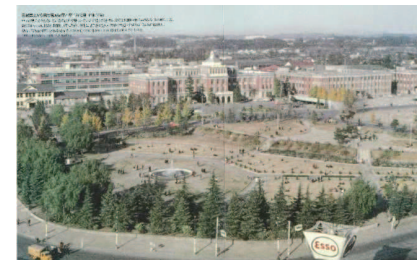
養賢堂は「精神作興の修練道場」の場。勾当台エリアの歴史の象徴で明治以降もその伝統は受け継がれてきたが戦災で焼失、当時の遺跡として残っていた池については現在の公園整備の中でそのまま土の下に保全されている。

●四ツ谷用水

藩政時代に造られた歴史的水路（四ツ谷用水）がかつて縦断していた。戦後の公園整備工事では水路に蓋をかけて広場として整備していた。その後、周囲の開発と共に機能を失った四谷用水は、その流れをモチーフにした復元水路や親水施設として現在整備されている。



藩校養賢堂跡の説明看板（歴史の広場）



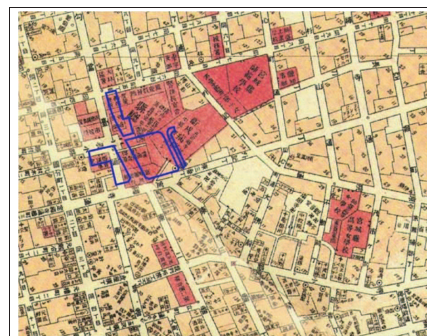
三越屋上からみた勾当台公園（昭和 37 年）
出典：仙台クロニクル

<ヒマラヤシーダーの移植>

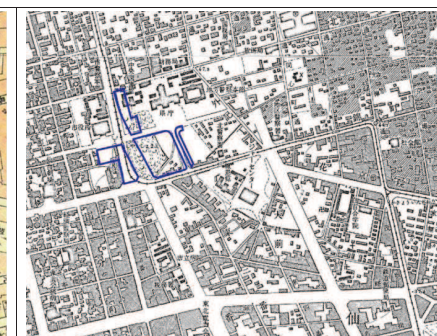
公園のリニューアルにあたり、保存樹林に指定のヒマラヤシーダーの移植を実施した。移植にあたっては、「杜の都の環境をつくる審議会」に諮り、公園内の 33 本のヒマラヤシーダーを 10km 離れた卸町東二丁目公園（若林区卸町東 2-4-1）に移植した（移植後 3 分の 2 は枯死したが、11 本が残存）。



ヒマラヤシーダーの移植（卸町東二丁目公園 左：昭和 57 年 9 月 右：令和 3 年 2 月）



大正時代の勾当台公園（大正元年）



開園当時の勾当台公園（昭和 32 年）